平成２９年度　地域懇談会　報告	
日　　時	平成２９年１１月６日（月）　午後６時から８時まで
場　　所	十王交流センター
出席人数	（１）市　民　　１３人 （２）事務局　　教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員　　計１９人
内　容	（１）教育長あいさつ （２）学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 （３）学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 （４）意見交換
意見交換	**（ 意見 ）（山部学区）** 何が一番問題かというとクラス替えということ。これから子どもが少なくなっていくのに、２学級や３学級が基準というのはおかしい。他の市町村はどうなっているのか。 今回も、（地域懇談会に）来ているのは、山部小学区の人だけ。山部小は危機感を持っている。“適正”な人数に決まりはない。入学してくる人数が“適正”だと思っている。児童数が１ケタになったら、地域も納得できる。３１人もいるのに廃校というのは納得できない。 ６～７年猶予があると分かったので、少し安心した。 １年生が櫛形小まで歩けない。小規模校だからこそできることがあると思う。１４３年の歴史を投げ出してしまうことはできない。 **（ 事務局 ）** 統一した基準がないと検討が始められないので、目安を検討している。 計画期間は設定するが、その通りにはいかないと承知している。仮に、山部小が統合されるとして、６～７年後に取り組みを始めるということではない。他市町村では、取り組み始めてから統合となるまでに６～７年がかかっているようだという例示である。 通学にもいろいろな方法があるだろう。無理のない計画としたい。 **（教育部長）** 大規模校、小規模校ともそれぞれの良さがある。検討委員会でもいろいろな意見がある。ただ、他市町村の例を見ると、全校生徒が１０人を切るようなところまで引き延ばして、果たして本当にそれでいいのかという思いはある。 計画ができたからといって、すぐに統合できるわけではない。時間がかかる。ただし、「子どもたちのために、あの時やっておけばよかった」と後悔したくない。教育委員会は、子どもの教育を第一に考えている。 **（ 意見 ）（山部学区）** コミュニティは十王だが学区は山部である。このコミュニティセンターは櫛形地区の中心である。もっと山部地区の中に来てもらえれば、もっと人が集まったと思う。

	（ 意見 ）（山部学区） 　父兄の考え方が大切だ。大規模校と小規模校では、父兄の考え方が全く違う。大規模校では、行事の準備などもＰＴＡ役員しかやらない。役員をやっていると運動会などで子どもの出番が見られない。小規模校では、家族や地域が総がかりで準備する。そのような形を壊してはいけないと思う。父兄の意見も生かしながら、教育というものはやっていかなければいけない。 　幼稚園や保育園がないから山部小に入って来ない。親子の顔見知りがいないからと、親の勝手で学校を変えてしまう。 　合併や少人数学級は賛成する。ただし、大規模校で弊害が出ていることが問題だ。 　学区割が機能していない。山部小を生かす方向で考えてもらいたい。学区を変えて、櫛形小の児童が少なくなれば、櫛形小でも特別教室や校庭を使いやすい。バランスを考えてほしい。 （ 事務局 ） 　学校の変更については、各家庭の事情があり、申請に基づいて相応の理由と認められれば許可している。 （ 意見 ）（山部学区） 　櫛形学区から変更して山部小に来ている人もいる。申請が必要なことも承知している。 （ 質問 ）（山部学区） 　この資料からは、子どものためと思えない。統合で学校が減れば、お金が浮くだろうという程度にしか考えていないのではないか。 　行政は縦割りだ。市長との懇談会でも、引っ越しで補助が出るような話をしていたが、住宅政策との整合はとっているのか。 （ 教育部長 ） 　仮に、山部小を統合して通学手段としてスクールバスを運行すると、統合しない方がお金はかからない。お金のことを考えてのことではないことを理解してほしい。子どもたちのことを第一に考えている。 （ 意見 ）（山部学区） 　茨城新聞に地域懇談会の記事が掲載されていた。 　適正規模は検討しているだろうが、適正配置については検討していないのではないか。スクールバスを出してまで通学させることが子どものためになるのか。山部小学区から櫛形小までは、人の通らない、家もないところを通わなくてはならない。 　山部のコミュニティと学校とのつながりを考えてほしい。山部小への愛着がコミュニティの横のつながりも醸成していると思う。廃校になると分かったら、つながりが薄れてしまうと思う。 （ 教育部長 ） 　適正配置については、来年度に計画を検討する中で考えていくものである。現在は検討していない。 （ 質問 ）（山部学区） 　櫛形小から学区を変えて、山部小にバスで通わせることは考えられないか。

	（ 教育部長 ） 　可能性としてはあると思う。保護者の考え方次第である。数合わせで無理に変更することはできない。相手があることである。 （ 事務局 ） 　通学区域の見直しということになると思う。 　「通学は徒歩で可能な範囲にする」と書かれてあった新聞記事の訂正をしておきたい。「できるだけ徒歩で通える範囲で考えたい」と答えている。現在の市内の最長通学距離２．８㎞（徒歩）を超えるような設定はしたくないと考えている。 （ 質問・意見 ）（山部学区） 　長期のビジョンに立った計画であると理解しているが、いくつか質問をしたい。 　十王地区の未就学児の数は、どれくらいか。 　櫛形小などの大規模校での不都合な点はないか。 　現在の中里小中学校の状況を教えてほしい。学区を見直したりしているのか。 　高原小が櫛形小に統合された当初、スクールバスが出ていたが、現在は路線バスで通学している。山部地区は路線バスが通っているので、スクールバスを運行しなくても利用できると思う。 （ 事務局 ） 　山部小学区の未就学児の人数は、平成２９年９月１日現在で２０人。平成３０年度入学予定が４人、３１年が２人、３２、３３年が３人、３４、３５年が４人である。 　大規模校では、特別教室や体育館の使用に際しての割振りが難しい。人数が多いので、学年の子どもたちの顔と名前が覚えきれないこともある。 　中里小中では、小規模特認校制で市内から通っている子どもたちのためにスクールバスを出している。中里小中学校の学区は市内全域となっている。小規模特認校制度に伴うものなので、学区の見直しとは異なる。 （ 意見・質問 ）（山部学区） 　１クラスの人数は何人と考えているのか。 　地域に小学校がなくなれば、出ていた人も帰ってこない。学校を残してほしい。山部地区に小中一貫校を作ってほしいとも考えている。 （ 事務局 ） 　１クラスの人数は、国・県の基準で考えている。茨城県では、小学１、２年生の学級の基準は３５人で、学年の人数が３６人の場合は２学級となる。小学３年生以上の基準は４０人である。茨城県では、３６人以上学級に非常勤講師を配置して、２人体制で子どもたちを指導している。実質的な少人数教育を行っている。 （ 意見・質問 ）（山部学区） 　学校の先生が専門以外のことを教えている状況があると聞いている。どのように採用しているのか。 （ 事務局 ） 　小学校の教員は、全ての教科指導ができるということで小学校教員免許

	を持つ教員が配置されている。中学校は教科担任制なので、専門教科の中学校教員免許を持っている教員が配置されている。御質問のような状況は把握していない。 　教員の採用は、茨城県教育委員会が行っており、小学校、中学校、特別支援学校などの校種別、中学校、高校の教科ごとの募集人数は公開している。（平成３０年度採用の例：小学校教諭　約３３０人、中学校国語３１人程度、中学校社会２６人程度、特別支援学校教諭　約７５人、養護教諭　約２８人　など） **（ 意見 ）（山部学区）** 　山部小がなくなると山部地区がまとまらなくなる。学校があるから、住民がつながっている。 **（ 意見 ）（山部学区）** 　地域の方に、学校のことに関心を持っていただいていて心強く思う。 　学区外から来てもらうことは難しいと思いながら、話を聞いていた。 　高原小を統合するときに、なぜ山部小に統合しなかったのかと思う。 　豊浦学区から櫛形小に行きたいと相談したら、教育委員会から転居するように言われたと聞いたことがある。そこまで厳格なのに、（山部地区の）県営アパートの人たちは簡単に櫛形小に行けてしまう。 　小規模校に対する考え方を強く持ってほしい。 **（ 事務局 ）** 　指定学校の変更は、相応の理由がある場合に許可しており、家庭によって異なる事情を個別に聞き取り、適否を判断している。 **（ 質問 ）（山部学区）** 　資料２には、適正規模が確保された場合の効果が書かれているが、デメリットとして挙げられていることはあるか。 **（ 事務局 ）** 　通学が遠くなるので、危険な場所を通らなければならい場合もある。また、教員の目が届きにくくなると言われている。 **（ 質問 ）（山部学区）** 　学区を見直すのと廃校（統合）とは、どちらが大変か。 **（ 教育部長 ）** 　どちらも大変。学区の見直しによって、現在通っている子どもたちをいきなり動かすことはかわいそうだと思っている。 　どこでも選べるようにすると、児童生徒数が極端に少なくなってしまう学校も出てくるだろう。予測がつかないので、そのような学校への対応（子どもたちへの配慮）が難しい。 　いろいろな問題が発生するだろうということは想定している。エリアごとに話し合っていくことになるだろう。 **（ 質問 ）（山部学区）** 　小さい学校から中学校へ行って、人数の多いところで、どうやって友達作りをしたらいいか、子どもが戸惑ってしまったという話を聞いた。小学校のうちから交流する機会を作れないだろうか。

	（ 意見 ）（山部学区） 　今でも、櫛形小と山部小は、高学年などが交流している。自分の子どもも山部小から十王中へ行ったが問題はなかった。 （ 事務局 ） 　進学に伴い、うまくいく人もいるだろうが、戸惑う人がいるのも当然。小学校の規模は同じくらいがいいのだろうが、そうもいかない。できるだけ学校の規模を近づけたいと考えている。 （ 意見 ）（山部学区） 　交流する機会を増やすように、教育委員会から学校へ指導すればよい。 （ 事務局 ） 　学校にはカリキュラムがあり、すぐに増やすことはできないが、学校には伝えていきたい。 以上